

被災地の保健活動 牡鹿総合支所での取り組みから

石巻市役所健康部健康推進課
保健師 遠藤照美

石巻市牡鹿総合支所の位置



牡鹿総合支所の被害状況

平成23年2月現在

- 人口 : 4,533人
- 高齢化率 : 39.5%
- 世帯数 : 1,853戸

- 死者 : 80人 (H25.2.20現在)
- 行方不明者 : 34人
- 合計 : 114人

- 避難者数 : 3,032人 (最大時)
- 避難所数 : 46か所

震災前の鮎川



震災直後の鮎川



震災後の鮎川



牡鹿総合支所の被害

➤ 罹災状況

- 全壊 921棟
 - 半壊 176棟
 - 一部損壊 638棟
- (H23年11月現在)

被災世帯数の約56,2%の被害

- 鮎川の商店街は、全壊、流失し、銀行や郵便局、商店などの生活に主要な関係場所がなくなる。
- 22行政区ある中、津波の被害により3地区は全滅した。しかし、網地島や新山地区は被害が少なかった。

各施設の状況 No.1

➤ 教育施設

● 小学校4校

谷川小は全壊…犠牲者なし

● 中学校1校…平成22年合併、牡鹿中学校

● 保育所2施設…全壊

➤ 牡鹿総合支所

● 津波による被害ないが、建物内に避難所ができる

➤ 石巻市保健福祉センター（清優館）

● 津波の被害はなく、避難所となる

各施設の状況 No.2

- 石巻市立牡鹿病院 : 被害なし
- 石巻市寄磯診療所 : 流失
- 網小医院（網地島） : 被害なし
- 特別養護老人ホーム : 職員入居者に大きい被害なし
- 地域活動支援センター（くじらのしっぽ）
 - 清優館内にあり被害なし
 - グループホームは津波で流失
- デイサービスセンターぱんぷきん
 - 一部避難所になりサービスが制限その後廃止
- 高齢者アパート流失、グループホーム全壊

職員の状況

課長

課長補佐

保健グループ

- 健康増進に関する業務
- 健診業務（乳幼児～成人）
- 予防接種
- 診療所業務
- 子育て支援業務
- 保健指導業務 など

介護グループ

- 介護保険に関わる業務
- 介護予防事業も含む

福祉グループ

- 福祉に関する事
- 生活保護業務
- 高齢者に関わる業務
- 網小医院関係
- 保育所業務

- 保健師 3人
(育休1人・病気休暇1人)
- 実質保健師は1人だった為、本庁から1か月に2回保健師が応援に来ていた
- その保健師は、以前牡鹿勤務をしていたので地区の実情も把握できていた
- 震災当日は、応援保健師のみで対応

震災当日のわたし

赤ちゃん訪問最中でした。

地震が起きた時は、体験したことのない揺れと光景に身動きが取れなかったのを覚えています。

揺れが長く続き恐怖に感じました。

一旦揺れが治まると子供を抱きながら裸足で外にしましたが、近辺の家の窓ガラスがはずれ、ブロック塀が崩れていました。

震災直後の保健活動：震災直後～3日目

- 牡鹿保健福祉センター内に避難所設営
 - 暖房等の用意
 - 不穏状態の住民の看護
 - 高齢者の対応
 - 認知症高齢者の看護
 - 緊急搬送者の対応
 - 薬や受診者の調整
- など

震災後4日目～10日

- 全避難所の巡回（5日目・6日目）
 - 病院の通院や薬への対応
 - 妊婦、乳幼児や障害者、高齢者情報確認
- 牡鹿病院への病人搬送
- 要介護者の相談
- 感染症対策とその看護
- 紙おむつや生理用品の相談

震災後11日～1ヵ月

- 東北大学眼科支援
- 難民を助ける会支援
- 東北福祉大学による避難所巡回
 - 訪問による妊婦健診や衛生指導など
- こころのケアチーム
- 宮城県東部保健福祉事務所の牡鹿担当保健師が定期的に情報交換と避難所巡回等実施
- 県外保健師応援：全戸調査訪問

震災後2か月～6か月

- 避難所生活から仮設住宅への移行
 - 熱中症予防や食中毒予防の健康教育
- 本庁の健診担当と業務打ち合わせ（33日目）
- 通常業務開始
 - 成人総合健診（被災者健診）、事後指導会
 - 網地島総合健診（被災者健診）
 - 乳幼児健診の準備



震災時の保健活動を通して No.1

1. 活動の拠点が残っていた＝安心して活動できた
2. 人との繋がり→普段の活動が大事
 - 牡鹿病院がとの連携
 - 在宅介護支援センターとの連携
 - 知的通所授産施設との連携
 - 特別養護老人ホーム、ぱんぷきんデイサービス
： センターとの連携
 - 地域の人との関わり（子供たちをお風呂に入れてもらう、要介護者の介護など）

震災時の保健活動を通して No.2

3. 地域の実情や特性がわかる事

- 妊産婦や乳幼児、高齢者などハイリスク者の情報収集のための活動をはじめた。
- 子供の状況を把握し、子育て支援活動再開への働きかけや保育所再開への働きかけ
- 精神不安定な方のケア
- 地域の人と助け合いながら、安定して生活できるような支援

4. 感染症予防活動

最後に

震災が起きて丸2年経過しようとしています。
震災時には、日本の国はもとより、世界中の多くの
皆様に支援いただいたことや暖かいお言葉をかけて
いただいたことは、私たちの大きい力となりました。
たいへん感謝しております。

